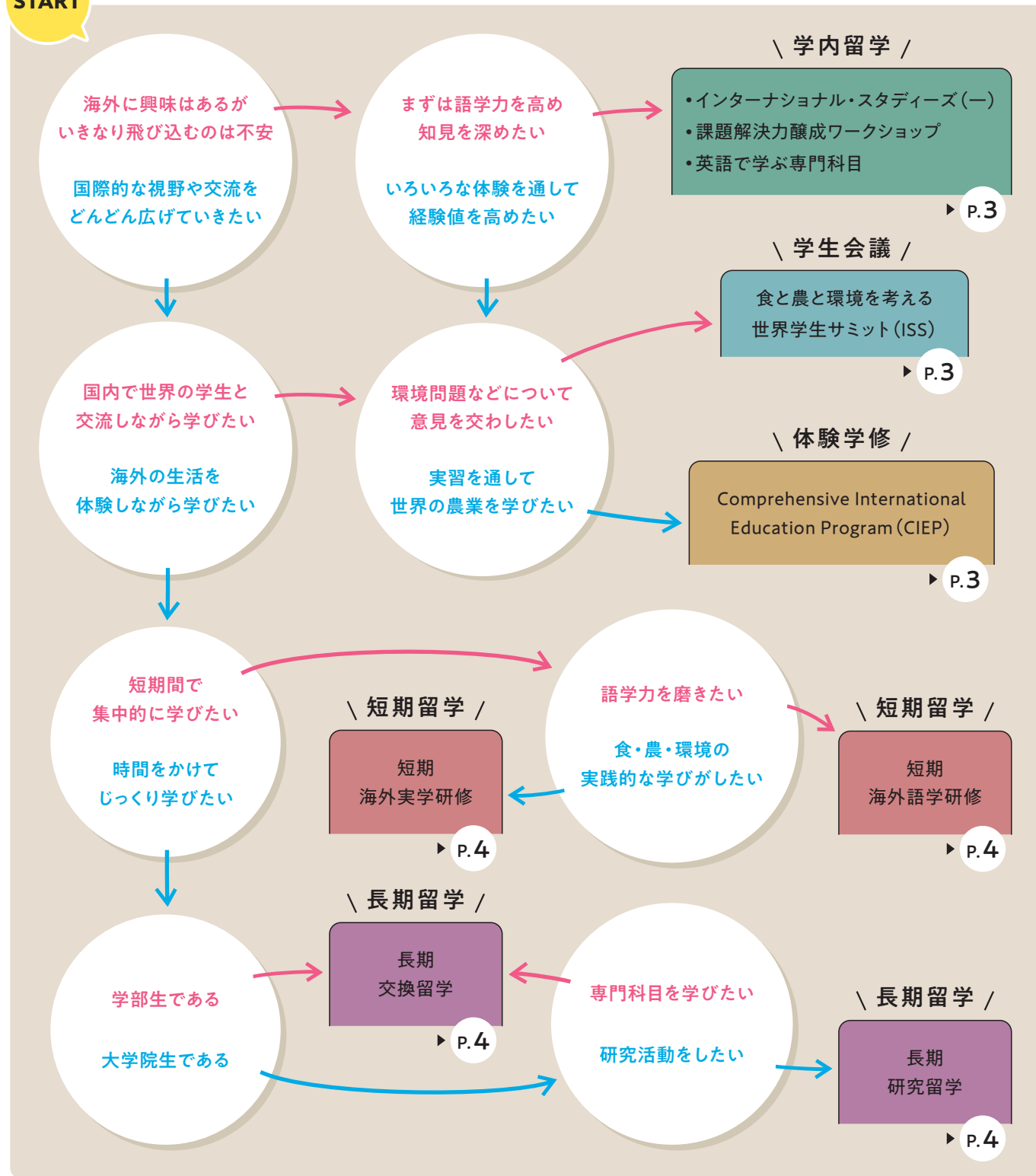


＼あなたにぴったりのプログラムを見つけてみよう！／

留学プログラムおすすめ診断チャート

START



TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE

東京農業大学

【世田谷キャンパス】
グローバル連携センター

【厚木キャンパス】
学生教務課

【北海道オホーツクキャンパス】
学生教務課

国際交流に関する情報を
キャッチしよう！

学生ポータルサイトを活用しよう
グローバル連携センターに相談しよう



メールアドレス shogaku@nodai.ac.jp
世田谷キャンパスアカデミアセンター2F
HP <https://www.nodai.ac.jp/cip/>

国際プログラムに関する
最新情報配信中

グローバル連携センター
公式LINE



グローバル連携センター
公式X(旧Twitter)



農
市

TOKYO UNIVERSITY OF
AGRICULTURE

2024

未来の私は、私がつくる！



留学プログラム案内

GLOBAL PROGRAM

海外協定校44校、世界32ヶ国・地域へはばたく学生を応援します。

13 ローヌ・アルプス農業栄養高等学院〈ISARA〉



ローヌ・アルプス農業栄養高等学院は、フランスの農業省が承認している農業、食品、環境科学を専門に学ぶ単科大学です。少人数のクラスで、授業はグループワーク、プレゼンテーションが多く、活発に意見を言い合います。言葉の壁に悔しさを感じることがありますが、日本では得ることができない成長を感じています。

浅川 咲来さん
応用生物科学部 栄養科学科

23 国立中興大学



国立中興大学は農業に関する研究が台湾で一番進んでいる大学です。授業の内容も興味深いものが多く、レベルが高いと感じます。また台湾の学生は努力家で英語も堪能、友人たちからとても良い刺激をもらっています。親日的で文化的な違いも少ないので、留学を迷っている方は挑戦しやすい国だと思います。

和田 榛名さん
国際食料情報学部 国際農業開発学科



44 ジョモケニヤッタ農工大学

ジョモケニヤッタ農工大学は自然豊かなキャンパスを持ち、農場や屋外で勉強できるスペースも整っていて、日本とは違う学びの環境に魅力を感じています。またカフェテリアがたくさんあって、安くご飯を食べられるんですよ。憧れのアフリカ大陸で、自分を見つめ直す時間を持つことができている。

大嶺 海乃さん
国際食料情報学部 国際農業開発学科



38 IPB 大学 (旧ボゴール農科大学)

先生との距離が近い緑豊かなキャンパス、イベントなど現地の学生と交流を深める機会が多いことが、IPB大学の魅力です。留学して約半年が過ぎましたが、インドネシア人の温かい人柄には驚きました。日本とは大きく違う食生活や宗教にも触れ、世界は多様であることを教えてもらっています。

遠藤 ひかるさん
国際食料情報学部 国際農業開発学科



4 チャピングゴ自治大学

チャピングゴ自治大学は勉強以外の活動にも力を入れている大学で、私はフットサル部に所属し、大学代表として試合に出場したこともあります。また広大なキャンパスではさまざまなイベントが行われ、学生生活を楽しめるものになりました。変化に富んだ国土を旅したのも忘れがたい思い出です。

大久保 夏斗さん
国際食料情報学部 国際農業開発学科

海外協定校一覧

国/地域	大学名	夏期春期 短期留学	長期交換 留学※1	2023年度 長期交換 留学 派遣人数
北米	カナダ	1 ブリティッシュコロンビア大学	● ★	
	アメリカ	2 ミシガン州立大学 3 カリフォルニア大学 デビス校	● ●	
中南米	メキシコ	4 チャピングゴ自治大学	★	
	ブラジル	5 サンパウロ大学 6 アマゾン農業大学	★ ★	
ヨーロッパ	ペルー	7 ラ・モリーナ国立農業大学	★	
	イギリス	8 レディング大学	●	
	スコットランド	9 ハイランズ・アンド・ アイランズ大学	★	
	オランダ	10 ワーヘニンゲン大学	★	1
	フランス	11 リール農業高等学院 12 アンジェ農業高等学院 13 ローヌ・アルプス 農業栄養高等学院 14 ブルバン技術学院 15 ボーベ・ラサール・ ポリテクニク学院	★ ★ ★ ○	3
		16 オンドクズ・マユス大学	○	
		17 国立生命環境科学大学	○	
		18 東サラエボ大学	○	
	ロシア	19 極東連邦大学 20 ロシア連邦沿海州農業 アカデミー	○ ○	
		21 中国農業大学 22 上海交通大学	★ ★	
アジア	中国	23 国立中興大学	● ★	2
	台湾	24 国立慶北大学 25 国立江原大学	★ ★	1
	韓国	26 フィリピン大学 ロスバニョス校	● ★	1
	フィリピン	27 ベトナム国立農業大学	★	
	ベトナム	28 王立農業大学	● ★	
	カンボジア	29 ラオス国立大学	○	
	ラオス	30 カセサート大学 31 タマサート大学	● ○	
	タイ	32 イエジン農科大学	○	
	ミャンマー	33 ネパール農林業大学	○	
	ネパール	34 ペラデニア大学	○	
	スリランカ	35 ハリヤナ農業大学	○	
	インド	36 モンゴル生命科学大学	○	
	モンゴル	37 マレーシアアトラ大学	★	3
	マレーシア	38 IPB 大学 (旧ボゴール農科大学)	★	2
	インドネシア	39 西オーストラリア大学 40 西シドニー大学	● ●	
	オーストラリア	41 ヘブライ大学	○	
	イスラエル	42 ジブチ大学	○	
	ジブチ	43 ソコイネ農業大学	★	
アフリカ	タンザニア	44 ジョモケニヤッタ農工大学	● ★	3
	ケニア			

※1 最新情報についてはHPをご確認ください。
★印のついている学校は、長期交換留学時留学先授業料が免除される大学です。
○印のついている学校は、近年派遣実績がないため、長期交換留学を希望する場合は必ず余裕を持って事前にご相談ください。

留学プログラム紹介

グローバル教育科目

学内留学

インターナショナル・スタディーズ(一)

世界の農業、食料問題をはじめ、社会、政治経済、文化について広い視野を持ち、理解を深める科目です。海外協定校のある国々を中心に、それらの国や地域の問題点と可能性を理解し、自国と世界の国々との協調のあり方を探ります。

言語

日本語

(前期開講科目)

グローバル教育科目

学内留学

課題解決力醸成ワークショップ

アフリカに関わる民間企業で活躍する方々を講師に、アフリカの課題や思考のフレームワークを使つての課題発見、定義、仮設の検証などの構築方法を学ぶプログラムです。タンザニア、ケニアの協定校学生との交流機会もあります。

言語

日本語

(多少の英語能力を必要とする)

グローバル教育科目

学内留学

英語で学ぶ専門科目

グローバル化時代において国際的に活躍し、社会に貢献できる人材を目指し、留学生や協定校学生の履修者とともに、食・農・環境についての基礎知識を英語で学ぶ科目です。英語で理解し、意見を発信する力を身に付けます。

言語

英語

(全学共通22講座／前・後学期開講科目)

気軽に楽しむ English Café

ALL Englishの交流会です。農大の留学生とともに気軽に英語を楽しみましょう。

費用

無料



短期留学

短期海外語学研修

学部1～4年 院生

海外協定校の語学プログラムで、集中的に英語を学びます。学生交流や専門講座が提供される国もあります。

費用

約35～100万円

(派遣先により異なる)

期間

夏休みまたは春休み3～4週間

渡航先

カナダ／オーストラリア／フィリピン他

科目

インターナショナル・スタディーズ(二)

短期留学

短期海外実学研修

学部1～4年 院生

海外協定校での学生交流、農村や農業関連施設の視察等を通じ、派遣国の食・農・環境について学びます。

費用

約20～60万円

(派遣先により異なる)

期間

夏休みまたは春休み2～3週間

渡航先

アメリカ／ケニア／カンボジア他

科目

インターナショナル・スタディーズ(二)

グローバル教育科目

学生会議 (ISS)

食と農と環境を考える世界学生サミット (ISS)

学部1～4年 院生

世界中の海外協定校代表学生とともに、食・農・環境の問題についてディスカッションを行うプログラムです。

費用

原則、自己負担なし

開催場所

世田谷キャンパス

期間

2024年8月上旬

科目

Group Approach to Food and Environment



グローバル教育科目

体験学修 (CIEP)

Comprehensive International Education Program (CIEP)

学部1～4年

講義、フィールドスタディー、ワークショップによる集中プログラムです。海外協定校の学生とともに、日本・アジアの食・農・環境と地域開発について学びます。

費用

5～6万円程度

開催場所

世田谷キャンパス、オホーツクキャンパス

期間

2024年7月下旬に約10日間

科目

Field Study of Food and Environment /Sustainable Agriculture in Asia




長期留学

長期交換留学

学部2～4年 院生

世界32ヶ国・地域44校に及ぶ海外協定校への長期交換留学プログラムです。留学先の学生とともに専門科目を学びます。

費用

留学中の本学学費は免除。派遣先大学の授業料は、協定により免除となる場合があります。(海外協定校一覧参照)

期間

半年間または1年間

長期留学

長期研究留学

院生

海外協定校の研究室に所属し、留学先教員の指導を受けながら研究を行う大学院生向けのプログラムです。

期間

半年間～1年間

他にも、英語プレゼン能力強化のためのインターンシップ、国際学会発表に係る経費補助など、さまざまなプログラムで院生を応援します！

ISSとは
第23回(2024年度)テーマ
「Youth Actions and Collaboration towards Resilient Food Systems and Environmental Conservation」
世界学生サミットは2001年11月に「新世紀の食と農と環境を考える世界学生サミット」をテーマとして本学の学生と海外協定校学生が世田谷キャンパスに参集し、人類が直面する深刻な諸問題に関する意見・情報交換および彼ら自身の役割について討論する国際会議として発足しました。
2023年度世界学生サミットは、19ヶ国・地域19大学から選抜された47名の代表者が参加し、4年ぶりに完全対面での開催となりました。参加した学生たちは持続可能な社会の実現に向け自らがとれるアクションについて、「食、農、環境、教育、栄養」を切り口に議論を行いました。
2024年度世界学生サミットは、8月上旬に世田谷キャンパスの国際センターで開催予定です。

CIEPとは
海外協定校の参加者とともに日本および世界の農業について英語で学ぶプログラムです。講義、フィールドトリップおよびグループワークで構成され、体験的な学修を通じて、多角的な視点から日本と世界の農業を理解できるようになっています。2023年度は、総勢29名(農大生19名、協定校留学生10名)の学生が参加しました。世田谷キャンパスでのワークショップと、オホーツクキャンパス近郊の実習地での農業実習を含めた、約10日間のプログラムを修了すると2科目4単位を修得することができます。

グローバル教育科目とは、農大で開講されている特別プログラムの1つです。各科目の詳細は履修の手引きおよびシラバスをご確認ください。

長期留学

長期海外学修活動

学部3・4年

海外で農業・農学分野に関連した体験的学修を行う学生に対し、休学期間中の授業料減免措置および単位取得が適用される制度(農業実習や農学分野関連のワーキングホリデー、インターンシップ等が対象です。語学留学は対象外です)。

期間

半年間または1年間

科目

海外農業実習(一)(二)(三)

卒業後の海外挑戦

JICA 海外協力隊

国際協力機構(JICA)と連携し、農大生を海外協力隊に推薦します。大学院に籍を置きながら協力隊に参加する制度もあります。

期間

長期2年、短期1ヶ月～

海外農業研修

国際農業者交流協会(JAEC)の農業研修プログラムでは、海外の優れた農業経営者の指導の下、技術やコミュニケーション力を身に付けます。

期間

3～18ヶ月

ダブルディグリー制度とは？

国際農業開発学専攻では、イギリスの名門レディング大学と協定を結び、2023年度からダブル・マスターディグリープログラムを開始しました。2年間のプログラムで農大とレディング大の双方の修士号を取得することが可能です。

3

4

VOICE & VOICE

短期海外実学研修



留学先
ジョモケニヤッタ農工大学
(ケニア)
農学部
農学科
本田 多門さん

滞在中にファームステイをする機会がありました。自給自足の生活をしているその農家では、ニヤマチョマというバーベキューのようなものを手で食べたり、牛舎の上にある部屋に宿泊したり、貴重で刺激的な経験をしました。現地の農業について学ぶだけでなく、雄大な自然に触れ、陽気で温かなアフリカの人々と関わるのはとても楽しかったです。将来は教員を目指していますが、この経験を国際協力に貢献できるような生徒の育成に活かしていきたいと思っています。

Private Photo



▲国立公園を自転車で周遊しました。後ろには野生のシマウマが！



▲ニヤマチョマを手で焼いている様です。

本田さんの1日

- 8:30 サステナブル農業の授業。ケニアでは有機農業が活発に行われています。
- 12:30 現地の学生と一緒にランチタイムです。
- 14:30 コーヒー生産の授業。授業の後にはコーヒーブレイクもありました。
- 19:00 ホテルで夕食。ビュッフェ形式のケニア料理を堪能しました。

ISS(食と農と環境を考える世界学生サミット)



Presenter
国際食料情報学部
国際食農科学科
武市 愛夢さん

新型コロナウイルスの影響で、4年ぶりに対面での開催となったISS(食と農と環境を考える世界学生サミット)。「東京の都市農業が持つ魅力と可能性」を発信し、世界の学生たちと共有したいという思いからプレゼンターとしてプログラムに参加し、発表に挑戦しました。英語力や発表内容に自信があったわけではありませんが、やりきったことで成長した自分を感じています。東京にいながらにして、海外の学生たちと意見交換できたことも大きな収穫でした。

当日に向けての準備

プログラムへ応募

2023年3月頃に応募し、参加が決定した同年4月より、グローバル連携センターの職員の方、学科の担当教員の皆さまにご協力いただきながら、準備を進めました。

調査

発表内容に一層の厚みが出るよう、活動先としてお世話になっていた農家さんへの聞き取り調査や、活動メンバーへのアンケートなどを実施しました。

ミーティング

オンライン交流サイトを通してグループ内で数回ミーティングを行い、各自の発表内容を互いに確認しました。



発表練習

グループのまとめ役であるChairpersonの2人が親身になって内容の修正や確認をしてくれ、意欲的に意見を交換し合いました。

当日の発表

時間を見つけて他のプレゼンターの発表を見学しました。皆の姿を見て、私もがんばろう、これからは自身の活動へ力を入れていこう、と改めて勇気をもらいました。

長期交換留学



留学先
慶北大学(韓国)
応用生物科学部
醸造科学科
小松 萌乃さん

世界中に発酵食品はありますが、日本と気候や文化が似ている韓国の発酵食品に興味を持ち、慶北大学に留学しました。韓国語のリーディング、発酵食品学実験、発酵乳加工学などの授業を履修。研究室活動にも参加させていただき、現地の学生とともに研究活動にも励みました。こうした機会に恵まれ、発酵食品について専門的な知識が広がったと自負しています。一方プライベートでは、趣味のバスケットボールを通じて、学校の枠を超えた友人ができました。友人たちと体を動かしたり、お茶を飲んだり、ご飯を食べたりするのは楽しく、教科書とは違う生きた韓国語を習得することができたと思います。こうした経験は現地に行かなければできないこと。留学には積極的に挑戦してほしいですね。

Private Photo



▲研究室活動に参加した際の実験の様子です。

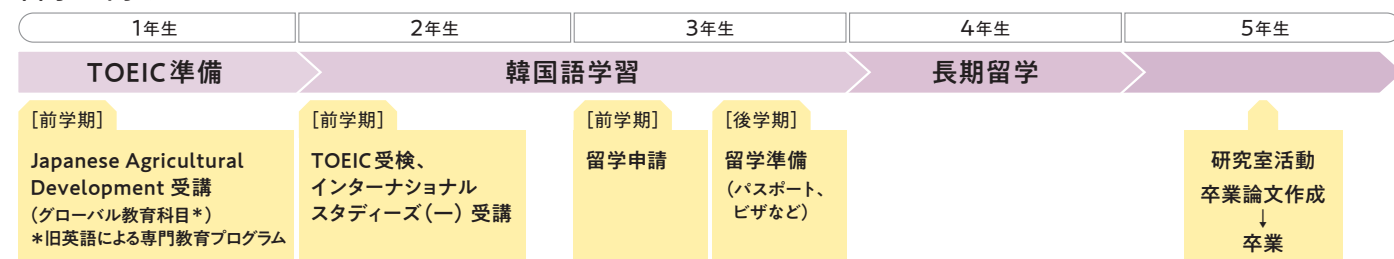


▲趣味のバスケットボールを通じ、学校の枠を超えた友人ができました。

小松さんの1日

- 8:00 1限の授業。韓国語のリーディングの授業からスタート。
- 12:00 友人と昼食。韓国はカフェが多く、飲み物をテイクアウトして午後の授業に行く学生が多いです。
- 18:00 3限の発酵食品学実験。研究テーマを班ごとに設定します。
- 21:00 友人と合流し、食事。学校周辺は飲食店が多く、いろいろなところを巡っています。

留学に向けて(小松さんケース)



なや お悩みトークルーム

皆さんのお悩みにお答えします！



グローバル連携センター長
生産環境工学科
三原 真智人 教授



留学はしたいけれど、**金銭面**にあまり余裕がなくて…。

「日本学生支援機構(JASSO)による海外留学支援制度」がありますよ。これは、本学の海外協定校への長期留学希望者のみ申請可能です。なお、奨学金は留学先に応じ月額6~10万円(返済不要)を支給。留学中、本学の学費は免除となり、更に派遣先大学の学費も免除になる場合があります。奨学金として、渡航準備金(アジア圏10万円、その他20万円)も支給されますよ。



副センター長(世田谷)
国際食農科学科
宮浦 理恵 教授



語学にまだ自信がなくて、留学先の授業についていけるか不安…。

まずは学内で開講されているグローバル教育科目で、農業・食料・環境の専門分野について、英語で学べ力をつけましょう。また長期留学や海外進学を目指す方はTOEFL、IELTS、TOEICを受験し、留学希望大学の出願資格を満たすスコア取得を目指しましょう！一般受験よりも受験料が安価な団体受験で受けることもできます。



副センター長(厚木)
動物科学科
庫本 高志 教授



1年間長期交換留学をして、4年間で卒業したい…。

本学の長期留学制度での留学期間は、本学の在籍期間として算入されますので、4年間で卒業することが可能です。ただし、修得単位数や派遣先大学での履修内容によって異なります。詳しくはグローバル連携センター、学生教務課および所属学科の教員へお問い合わせください。



副センター長(オホーツク)
北方園農学科
中丸 康夫 教授

気軽に
相談に来てね！